

令和8年度 県立磯原郷英高等学校自己評価表

目指す 学校像	地域の伝統及び文化を継承し、地域と共に生き、地域、日本そして世界の明日を担う有為な人財を育成するため、以下の項目を重点とした学校づくりを行う ○生徒一人ひとりが、人間性やひたむきに物事に取組む姿勢を高める学校 ○生徒一人ひとりが、知性・徳性・体力を調和よく高める学校 ○適性や能力に応じて、生徒一人ひとりが自己実現を目指す学校		
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー →)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○豊かな人間性とひたむきに物事に取組む姿勢の育成 ○知・徳・体の調和と成長し続ける資質・能力の育成 ○個性や能力を伸ばし、自己実現を目指す資質・能力の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○基礎・基本の定着と体験的な学習活動の充実 ○地域を題材とした組織的・計画的な探究活動の実践 ○個々の適性や希望に応じた進路実現に向けた学びの展開	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○何事にも積極的かつひたむきに取組む意欲のある生徒 ○規範意識を持ち、自ら成長しようとする意欲のある生徒 ○適性や関心を見つめ、目標に向かって努力する意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
令和7年度の進路実績において、就職希望者の内定率は100%、進学希望者においては、進学決定率が100%であった。多様な進路希望を実現するための支援のため、生徒の個に応じたきめ細かな進路指導をより効果的に展開する必要がある。	探究的な学び、協働的な学びをとおして生徒が確かな学力を身につけるための授業実践	①「授業を通して、知識や技能(技術)が身についた。」(授業評価)と感ずる生徒3.5/4.0以上 ②「授業を通して、考えたり表現したりする力が身についた。」(授業評価)と感ずる生徒3.5/4.0以上 ③「授業を通して、基礎・基本となる力が身についた。」(授業評価)と感ずる生徒 3.5/4.0 以上	
学習面では、多くの生徒が授業へ意欲的に取り組んでいるが、家庭学習などの主体的に学びに向かう姿勢を見せる生徒は少なく、個別に支援が必要な生徒も見られる。生徒が学習に集中して取り組み、生徒の学びが、主体的な学び、協働的な学び、探究的な学びとなるように授業内容の工夫と改善を図り、生徒の学力の定着と向上を図る必要がある。	ICTの効果的な活用による教育の質の向上	④ICTを効果的に活用し、生徒の学びが協働的な学びや個別最適化された学びとなるよう、授業改善を図る ⑤「学びの進め方を工夫している。」(授業評価)と感ずる生徒 3.5/4.0 以上 ⑥「先生は適切にアドバイスしてくれる。」(授業評価)と感ずる生徒 3.5/4.0 以上	
課外活動では、部活動において県大会で活躍し、関東大会に出場する部活動もある一方で、活性化が必要な部活動も見受けられる。また、学外における体験的な学びや探究活動に積極的に参加する生徒も少ない。生徒が学校行事や部活動、学校外での諸活動等に主体的に取り組むことができるよう支援し、今後も地域から期待され、信頼される学校づくりに努力していかなければならない。	ひとり一人の適性と希望に応じた進路実現	⑦地元企業や地域住民、県内の上級学校との連携など地域の教育力を活かして、「進路に関する行事や進路情報の提供が適切に行われている。」(生徒による学校評価)と感ずる生徒80%以上 ⑧「進路に関する指導・相談がよく行われている。」(生徒による学校評価)と感ずる生徒80%以上 ⑨就職希望者の就職内定率100%達成 ⑩四年制大学、医療看護系専門学校の合格者数3名	
	自律した生徒の育成	⑪集団生活における自己の役割と責任を自覚させ、社会のルールやマナーを守りながら主体的に行動できる力を育成する ⑫チャイム着席等のルールや、身だしなみを常に意識させることで、秩序ある学校生活を送ることができるようにする ⑬「生徒は校則や学校の約束を守っている。」(生徒による学校評価)と感ずる生徒 65%以上	
	地域社会に貢献できる人財の育成	⑭「あ・そ・ぶ・べ・な」(挨拶、掃除、部活動、勉強、仲間づくり)の行動指針を実践させる ⑮地元企業や地域住民との連携など地域の教育力を活かした活動をとおして、地域の一員であることの自覚を高め、併せて地域社会で役立つ力を育成する ⑯「生徒は学校生活に対していきいきと意欲的に取り組んでいる。」(生徒による学校評価)と感ずる生徒 70%以上	
	教職員の在校時間の顕在化と業務の効率化の推進	⑰授業やその準備にICTを効果的に活用するなどして業務の効率化を図り、時間外在校時間の月平均時間を20時間以下にする ⑱分掌等の校務にICTを効果的に活用するなどして放課後等の会議や打合せ等を精選するなどの業務改善を図り、時間外在校時間の月平均時間を20時間以下にする	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	確かな学力の育成	授業目標を明確にし、目標達成のために協働させるなどして知識の習得を図る			
	主体的に学習に取り組む態度の醸成	学習課題に興味関心を持つよう、学びの内容や進め方を工夫する			
	ICTを活用した授業の実践	ICTを効果的に活用して授業の効率化を図るとともに、学びの場面において生徒が探究的な学び、協働的な学びが実践できるよう授業改善を図る 全教科全教員による互見授業を実施し、教科研修等を行う			
教科	国	基礎的・基本的な知識技能の確実な習得と表現力の育成	漢字力や語彙力を向上させるため、チームティーチング授業、小テスト等を実施し、国語科の知識や技能が深まったと回答する生徒が 80%以上とする 生徒の実態に合わせた作文指導及び課外指導を行ない、表現力が向上したと回答する生徒が 80%以上とする		
		主体的に学習に取り組む姿勢の育成	授業開始の準備を整えてから授業を実施する。チャイム着席、準備完了の生徒を 90%以上とする ノートや課題の提出を定期的に行ない、成績不振者に対し早期の対策を図り、不振者指導対象者を 10%以内とする		
		ICT を活用した授業展開	電子黒板等を効果的に活用するとともに、生徒が ICT を活用して協働的に学ぶ授業を展開し、授業がわかりやすいと感じる生徒が 80%以上とする 相互授業参観において、授業内容や方策等について研究協議し、科内の共有教材を 10 種類以上にする		
	地歴・公民	基礎学力の定着	日々の生活・学習習慣の確立、小テストや発表などを通した「繰り返し(反復)」の指導、そして個人の理解度に応じたきめ細かなサポートを行う		
		ICT を活用した授業展開 基礎学力の定着	日々の生活・学習習慣の確立、小テストや発表などを通した「繰り返し(反復)」の指導、そして個人の理解度に応じたきめ細かなサポートを行う		
	数	確かな学力の向上	基本的な計算能力、数学的思考力を育成し、教科書の知識の確かな定着を図る 定期考査の平均点が 30 点以上の回が全体の 60%		
		学びに向かう姿勢の定着	定期考査やそれに向けた課題を通して、学習に取り組む姿勢、習慣を定着させる 課題の提出率 70%		
		ICT を用いた授業の実践	ICT の有効活用によって授業を効率化し、グロースナビを用いた主体的な演習時間を確保する こうした授業を年間 5 回以上実践し、学習の定着を図る		
	理科	確かな学力を身につける授業の実践	ICT 機器を活用しながら、科学に対する興味関心を高める工夫をし、主体的に理科の学びに向かう姿勢を育む		
			タブレット等で基礎問題を繰り返し解くことによって、確かな学力の定着と向上に努め、十分ではない生徒にも確かな学力を身につけさせるため補習等の支援を行う		
学習内容の定着のため、生徒が対話や質問ができる機会を設ける					
学習習慣の定着		ノートや課題の提出を定期的に行うことで、学習習慣の定着を図る			
	授業改善	授業公開や生徒アンケートを実施し、授業内容・方法等について教科内で定期的に研究協議する			

別紙様式 2 (高)

保健 体育	豊かなスポーツライフの基礎を 培う授業実践	協力し合いながら課題を解決する能力、ルールを遵守する態度、および他者を尊重する姿勢の育成 を目指し、授業改善を図る			
	ICT を活用した授業改善	ICT を効果的に活用して、生徒が探求的・協働的な学びができるような授業改善を図る			
芸	協働的な学びによる表現力の育成 (授業評価「考えたり表現したりする力 が身についた」と感じる生徒を 3.5/4.0 以上とする)	基礎的な表現技能を段階的に身につけられるよう、具体的な作例を用いた分かりやすい指導を行う			
		少人数のグループ活動や相互批評を取り入れ、生徒同士が対話しながら表現を高め合う場面を設定する			
		作品の背景や構造について生徒の理解度に合わせた解説を行い、芸術への興味・関心を高める			
	個に応じた指導による芸術活動 意欲の向上 授業評価「適切にアドバイスしてくれる」 を 3.5/4.0 以上、学校評価「いきいきと 取り組んでいる」を 70%以上とする)	生徒の適性や進度に合わせた個別指導を充実させ、成功体験の積み重ねによる自己肯定感の向上を図る			
	実態に応じた教材や課題設定の工夫により、全ての生徒が達成感を得られる授業環境を整える				
	「あ・そ・ぶ・べ・な」の行動指針に基づき、用具の準備・片付け等の規律を徹底させ、意欲的に取り組む態度を養う				
術	ICT 活用による主体的な芸術学 習の促進 授業評価「学びの進め方を工夫している」 とを感じる生徒を 3.5/4.0 以上とする)	視聴覚資料や ICT 機器を効果的に活用し、芸術の特徴を視覚的・聴覚的に理解させる授業展開を行う			
	ICT 機器を用いた制作過程の記録と振り返りの機会を設け、自己評価や相互評価を通して表現技術の向上を支援する				
英 語	確かな学力の育成	既習事項の確認を随所に配置した授業を設計することで、知識・技能の習得を図る			
		小テストを定期的実施することで確かな学力の定着を図るとともに、主体的に学びに向かう態度を育成する			
	主体的・対話的な言語活動の充 実	英語4技能の向上のため、パフォーマンステスト等を活用する頻度を上げ、生徒の主体的・対話的な言語活動を充実させる			
		ペア、グループワークを積極的に取り入れ、生徒の学びが協働的な学びとなるような環境を整える			
ICT 等を活用した「わかる授業」 への授業改善	生徒が成功体験を積むことができるよう、スモールステップを意識した授業となるよう改善を図る				
	ICT を活用して生徒の視覚的・聴覚的な学習補助を行うと同時に、生徒自身が各種ツールを適切に使用できるようにすることで、生徒の学びが深い学びになるよう改善を図る				
家 庭	課題解決型学習による、生活の 営みに係る見方、考え方の育成	ホームプロジェクトを行うことを通して、課題解決能力を身につけさせる			
		課題解決型学習を通して探究力を身につけさせるために、生徒がチャレンジする課題を設定しながら、授業アンケートで「生徒が課題に取り組む時間を設けている。」と感じる生徒 90%以上を目指す			
情 報	情報活用能力の向上	1. 情報社会と問題解決 2. コミュニケーションと情報デザイン 3. コンピュータとプログラミング 4. 情報通信ネットワークとデータの活用 の4分野を基礎から学ぶ			
	情報社会における望ましい態度 の育成	著作権・肖像権等の情報倫理を身に付ける。コンピュータ、スマホ等でネットワーク、SNSを利用する際のマナーや注意力を高める指導を展開する			
	「小規模校支援型遠隔授業」の円滑 な実施	高校教育課 配課等と連携を図り、「情報I」の遠隔授業の円滑な実施運用を進める			

別紙様式 2 (高)

商 業	確かな学力の育成	授業内容の工夫と改善を図る			
		必要な個別支援を適切に行う			
	地域社会に必要とされる知識・態度等の涵養	コミュニケーション能力、ビジネスマナーの涵養			
		資格取得につながる学習意欲の喚起			
教 務	多様な学びへの対応	生徒の実態にあった教育課程・指導計画・学習成績評価を研究し、主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びの実現に努める			
		生徒学習用端末や ICT 機器を積極的に活用し、生徒が主体的に学べるよう授業を改善する			
	広報活動の推進	効果的な学校PRを研究し、地域・中学校・保護者へ学校の様子が伝わるよう広報内容の充実を図る			
	情報管理の運営	学校全体のデータ管理、データ処理の援助を行い、校内 LAN システム、校務支援システムの円滑な運用を図る			
		適切な情報管理ができるよう、管理方法や取り扱い方法の周知徹底を図る			
	PTA主体の活動の活性化	学校行事において PTA との連携による行事運営の円滑化と、PTA 会報による広報の充実を図る			
図書館利用の推進	出張図書館を開設するなど、学校図書を利用しやすい環境を整備する				
	図書館通信や新刊案内の発行を通して、新着図書の連絡や読書の効用などを周知し、また、図書館行事などを工夫することによって図書館利用を活性化する				
進路指導	生徒の主体的な進路選択支援	社会で活躍できる人財を育成し、希望する進路決定のために、3年間を見通した進路支援計画を立案し、キャリア教育等を計画的に行う			
	進学指導の充実	希望進路実現と進学後に活用できる確かな学力の養成を図るために、面接練習、小論文指導、課外授業を行う			
	就職指導の充実	確かな学力の定着を図るため、各教科と連携し指導を行う			
生徒支援	規範意識及び基本的生活習慣の育成	集会・HR 等で身だしなみを含めた社会で必要とされる基本的習慣について粘り強く伝える			
		登校指導や遅刻カード記入の際など、あらゆる場面で規則を遵守できるよう支援していく			
	安心・安全な学校づくり (生徒事故等の未然防止)	校内巡視を継続的に実施し、問題の早期発見や未然防止に努める 教員間で生徒情報の共有を徹底し、変化に気付けるようにするとともに、教職員・保護者・外部機関が連携し、チームで支援する			
交通事故の未然防止	交通講話を実施するとともに、集会や HR においても、青切符制度や歩行者としてマナーなどの知識の深化を図り、交通ルールを遵守する態度を養う				
保健厚生・特別活動	生徒・教職員の心身の健康の増進	風邪やインフルエンザ等の感染症、食事、保健室の利用状況等について情報を共有をする			
		生徒、教職員の心身の健康保持増進をはかるため、積極的な広報と研修会を行う			
		防災避難訓練の計画と実施、非常時の安全対策を行う			

別紙様式 2 (高)

	生徒の学習活動のための環境整備の充実	清掃指導の徹底、清掃用具の管理に努める 環境整備の一環として、販売業者との連携調整を行い、円滑に昼食の購入ができるように支援する			
	社会性の育成、自主的・実践的態度の醸成、所属意識の向上	ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事などの集団活動を通じて、育成することを目指す			
1 年 次	基本的生活習慣の確立	生徒が規則正しい生活を身につけられるよう指導する			
		欠席・遅刻・早退の回数を抑える指導と、家庭との連絡の徹底 95%以上を目指す			
		社会のルール、マナー、校則遵守による規範意識の定着を目指した指導を行う			
	確かな学力の育成	生徒の能力に合わせた授業内容の工夫と改善を図る			
		個別最適化された指導・支援を適切に行う			
	社会に求められる人財の育成	進路希望先の決定率 90%以上を達成するために、キャリア教育の充実をはかる 総合的な探究の時間、学校行事、HR活動等の時間を活用し、生徒の資質能力の育成をはかる 生徒が健全な人間関係の構築ができるように、ソーシャルスキルの向上をはかる			
2 年 次	進路につながる基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退の家庭との連絡を徹底し、欠席・遅刻・早退を減らす			
		服装頭髪指導を徹底し、年次全体で指導する			
		社会のルールやマナーを遵守させ、社会に出ても通用する人間性を確立する			
	進路につながる基礎学力の向上	全教育活動を通して、進路につながる基礎学力をつけさせる			
		進路指導部と連携し、生徒の進路を確立させる			
	「文武不岐」を目指す。	ホームルーム活動や学校行事を通して、集団の中での自己の役割を確立する			
勉強や部活動、進路活動を通して目的意識を持たせ、自己の向上を図る					
3 年 次	社会に求められる人間力を備えた自律した生徒の育成	集団生活において自己の役割を理解させ、学校や社会のルールやマナーを守り、秩序ある学校生活を送ることができるようにする			
		基本的生活習慣を確立させ、欠席・遅刻・早退連絡を徹底させ、欠席・遅刻・早退を減らす			
		挨拶や掃除、適切な人との関わり方等に関する学びを HR 等で実施するなど、人間力を高める手立てを効果的に行う			
	生徒一人ひとりに応じた進路実現	進路に関する情報提供・指導・相談を進路指導部と連携して行う			
	全教育活動を通じた、進路を実現するための確かな学力の向上	必要に応じて個別支援を適切に行い、生徒の興味・関心が高まるような授業を実践する			
		チャイム前着席、身だしなみ、学習環境整備の声掛けを行い、規律ある落ち着いた学習機会を提供する			

※ 評価規準 A:大変よくできた(達成度 100~80%) B:よくできた(達成度 80~60%) C:普通(達成度 60~40%) D:あまりできなかった(達成度 40~20%) E:全くできなかった(達成度 20~0%)